



2030北海道・札幌 オリンピック・パラリンピック冬季競技大会 概要(案)

2030 HOKKAIDO SAPPORO OLYMPIC AND PARALYMPIC WINTER GAMES

100年後も世界に誇れるSAPPOROであり続けるために…



札幌市



私たちが受け継いだものを
次の世代に。

ICE HOCKEY
アイスホッケー

PARA BIATHLON
パラバイアスロン



PARA SNOWBOARD
パラスノーボード

PARA ICE HOCKEY
パラアイスホッケー



BOBSLEIGH, SKELETON
ボブスレー・スケルトン

PARA ALPINE SKIING
パラアルペンスキー



CURLING
カーリング

LUGE
リュージュ



2030 HOKKAIDO SAPPORO OLYMPIC AND

皆さまへ

オリンピック・パラリンピック。
一流のアスリートたちが、鍛えぬいた身体と磨き上げた技術で競い合うこの世界最大のスポーツイベントは、まち全体を独特の熱気と興奮で包み込み、人種、年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、人々に夢と希望、そして感動を与えてくれます。

新型コロナウイルスの影響により1年延期して開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、コロナ禍という不測の事態に見舞われながらも、自らの限界に挑戦するアスリートの姿が世界中に勇気と感動をもたらし、スポーツの持つ「世界と未来を変える力」を再認識する機会となりました。

2022年、札幌市は、市制施行から100周年という大きな節目を迎えます。2030年の初めてのパラリンピック、そして2度目のオリンピック開催に向けた一連の取組は、50年後、100年後のまちの礎となり、未来を切り拓いていくためにも重要なものであると考えています。

大会招致の実現には、皆さまのご理解、ご協力が必要不可欠です。そのため、私たちは皆さまと丁寧に対話を行い、様々な機会を通じてご意見やご意向を確認しながら計画の更なる検討を進め、市民の皆さまとともにこの大会を創り上げてまいります。

札幌は多くの国際競技大会開催の実績と競技施設を持ち、市民にウィンタースポーツ文化が根付く、オリンピック・パラリンピック開催のポテンシャルを持った都市です。

「北海道・札幌にオリンピック・パラリンピックを」、大会の開催とそれに向けた取組が、将来にわたって札幌のまちが輝き続けるきっかけとなることを確信し、大会の開催を目指してまいります。

令和3年(2021年)11月

札幌市長 秋元克広



2030 Hokkaido Sapporo Olympic And Paralympic Winter

SKATING
スケート

Sapporo

WHEELCHAIR CURLING
車いすカーリング

SKIING
スキー



BIATHLON
バイアスロン

©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO

PARA CROSS-COUNTRY SKIING
パラクロスカントリースキー

PARALYMPIC WINTER GAMES

Contents

目次

- 01. 招致にあたって 3
- 02. 大会がもたらすまちの未来 5
- 03. 大会概要(案)のポイント 13
- 04. 競技 16
- 05. 宿泊・輸送等 26
- 06. 施設整備費(本設費用)の試算 ... 27
- 07. 大会運営費(組織委員会予算)の試算 28
- 08. 招致に向けた取組 29



01

招致にあたって

1972年から現在

❄️ 札幌と1972年オリンピック

- 札幌1972大会は市民の誇りとアイデンティティを形成し、大会を契機に都市整備を推進、国際観光都市としての地位を確立
- 札幌はオリンピックをきっかけに発展し国内有数の都市にまで成長

1972年に札幌で開催された冬季オリンピックは、札幌のウインタースポーツシティとしてのプレゼンスを高め、国際化に大きく貢献するとともに、札幌のまちを大きく変え、市民の誇りとアイデンティティの形成につながりました。

札幌はこの大会を契機として、地下鉄南北線や地下街、高速道路や市内の道路網、環境に配慮した地域熱供給等、今も活用されているまちの基盤整備が進みました。

また、当時のさっぽろ雪まつりの様子が、大会の映像とともに世界中で紹介されたことをきっかけに、国内外から多くの観光客が訪れるようになり、国際観光都市としての地位を確立しました。

このように、札幌のまちは、オリンピックをきっかけに大きく発展し、今や約200万の人口を抱えるとともに、市民の愛着度調査や全国市町村魅力

度調査で常に高い評価を得るなど、名実ともに国内有数の都市と言えるまでに成長を遂げました。



©札幌市公文書館所蔵

❄️ 札幌が抱える課題

- 札幌は人口減少・少子高齢化への対応、共生社会の実現、インフラの更新、気候変動対策等の取組が必要

オリンピック・パラリンピックは、子どもたちに夢や希望を与え、世界平和や団結に貢献し、多様性への理解を促すだけでなく、開催地のまちの活性化を促します。

経済や社会制度が高度に発展し、必要なものやサービスが満たされた成熟都市へ成長した現在の札幌は、世界中から多くの観光客をひきつけ、また、多くの市民が住み続けたいと願う、内外から羨望の眼差しを送られる魅力に満ちた都市となりました。

しかし、現在の札幌は、人口減少・少子高齢化といった社会構造の変化や、共生社会実現のためのバリアフリー

化の推進、1972年前後に急速に整備され老朽化が進んだインフラの更新、世界的に直面している気候変動への対策等、今後も魅力あふれるまちであるために解決しなければならない多くの課題を抱えています。

また、北海道は、札幌への人口等の一極集中が顕著となっており、私たちを取り巻く状況の変化に先んじて対応しなければならない地域であると言えます。

これからの前例のない時代を迎えるにあたっては、一人ひとりが直面する変化を認識し、知恵をしぼり、力を結集する必要があります。



2030年は先の未来を見据えた札幌ならではの大会に

- オリンピック・パラリンピックは、大会の開催を契機として多くの力を集め、人々の思いを一つに束ねる世界最大級のイベント
 - 四季の明瞭な札幌で気候変動に関する取組を結集
 - 札幌ならではの文化を通じ子どもたちが夢や希望を抱くまちの実現
- 2030年までの期間は、札幌が持続可能なまちであるための礎を築いていく大切な道のり
- 都市と自然が調和した雪のまちでSDGsの先の未来を展望する大会へ

オリンピック・パラリンピックは、単なる一過性のスポーツイベントではなく、大会の開催を契機として、市民、企業、行政等多くの力を集め、人種や性別、国籍の垣根を超えた人々の思いを一つに束ねることのできる世界最大級のイベントです。

大会の開催を通じて、多くの人々の力と思いを結集することで、既存の考え方にとらわれない発想の転換と先進的な取組を生み、ひいては、それが持続可能な社会を目指すための絶好の機会を生み出します。

例えば札幌は、都市機能と自然が調和した世界的にもまれな都市であり、1年の間に、雪解けの草花が芽吹く春、冷涼な気候で過ごしやすい夏、雄大な自然が織りなす紅葉が彩る秋、美しい銀世界に包まれる冬といった、四季折々の景色を感じられるまちです。このような札幌だからこそ、気候変動の脅威を身をもって感じることができ、オリンピック・パラリンピックを契機とした先端技術の導入や、市民一人ひとりの環境行動、意識の変容が期待できます。

また、子どもたちが、世界最高峰の競技の迫力やスピード感を目の当たりにすることで、「自分もやってみたい、頑

張りたい!」という気持ちが芽生えます。ウィンタースポーツという、冬期は雪に包まれる札幌ならではの文化を通じて、子どもたちが夢や希望を抱くことのできるまちの実現につながります。

札幌市が開催を目指している2030年のオリンピック・パラリンピックは、SDGs(持続可能な開発目標)の目標年と同じ年です。その先の未来において、札幌が持続可能なまちであるためには、大会後の2031年以降にあるべきまちの姿を見据え、大会の開催とそれに至るまでの一連の取組を連動して進めていくことが必要です。これから2030年までの期間は、その礎を築いていく大切な道のりと言えます。

市民の笑顔があふれるこの札幌が、50年後、100年後の将来にわたって輝き続けるために、初のパラリンピック、2度目のオリンピックで「都市と自然が調和した雪のまちでSDGsの先の未来を展望する大会」の実現を目指します。

そして、この大会が実現することで、市民が愛着と誇りを持ち、将来も住み続けたいと思うと同時に、誰もが訪れたいと思うまちを創り上げたいと考えています。



02

大会がもたらすまちの未来

オリンピック・パラリンピックをまちづくりに活かすために

オリンピック・パラリンピックの開催は、我々が直面している諸問題を解決するきっかけとなり、50年後、100年後の未来を見据えたまちづくりを進めるための絶好の機会です。その機会を最大限に活かすためには、オリンピック招

致の段階から大会の目指すべき方向性(大会ビジョン)と大会後に目指すまちの姿(ターゲット)を構築し、大会によって何をもたらすことができるのか(レガシー)を明確化しました。

❄️ 大会ビジョン

札幌らしい持続可能なオリンピック・パラリンピック ～人と地球と未来にやさしい大会で新たなレガシーを～

まちがこれまでに積み上げてきた歴史や文化、都市機能と自然の調和等が多面的に「つながる」大会とすることで、SDGsの先の未来を展望する大会の実現を目指します。

- **過去と未来**：1972年大会で確立したウインタースポーツ都市を次世代の子どもたちに継承する
- **都市と自然**：高度な都市機能と豊かな自然が調和したまちを創る
- **オリンピックとパラリンピック**：初のパラリンピック開催を契機にまちのユニバーサルデザイン化等、
すべての人にやさしいまちを創る
- **スポーツと他分野**：スポーツと文化、教育、経済、観光、環境等、他の分野をつなげることで、
無限の可能性を創出する
- **札幌と世界**：選手や来訪者だけでなく、オンラインでつながる方々との交流により、
札幌と世界を結びつける
- **札幌と日本**：東京2020大会から、2025年の大阪万博、2026年の愛知・名古屋アジア競技
大会と続く、大規模国際イベントの盛り上げりを継承し、日本全体が「つながる」
ことを実現する
- **オリンピック・パラリンピック**：オリンピック・パラリンピックは、様々な課題解決の触媒となり、
とまちの未来 SDGsの先の未来を見据えたまちづくりのきっかけになる





❄️ ターゲット&レガシー

2019年に実施したワークショップで寄せられた市民の皆さまのご意見では、オリンピック・パラリンピックに期待する効果として、健康増進や経済の活性化、バリアフリーの促進を通じた暮らしやすい社会の実現等が挙げられていました。

これらのご意見に喫緊の課題である気候変動対策を加え、「スポーツ・健康」「経済・まちづくり」「社会」「環境」の

4つの観点から、ターゲット(大会において目指すまちの姿)を構築し、レガシー(大会によってもたらされるもの)を明確化しました。

なお、次ページ以降で掲げているレガシーは、市民生活に根差したものとして挙げられる一例であり、市民の皆さまとの対話等を通じて今後さらに検討を進め、より一層の強化を図っていきます。

体系図



参考：SDGs(持続可能な開発目標)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



平成27年(2015年)の国連総会で採択された国際目標。17のゴール(目標)と169のターゲット(取組・手段)で構成されている。

02 大会がもたらすまちの未来

スポーツ・健康

❄️ 札幌市の特徴：健康寿命が全国平均より低い

ターゲット（目指すまちの姿）

スポーツによる健康で活力のある社会



レガシー（大会によってもたらされるもの）の一例

ジュニア選手の発掘・育成を図り、
次世代のトップアスリートを
札幌から輩出します！

大規模にボランティアを募集し、
市民とともに大会を
創りあげていきます！

そのほかにも…

健康寿命の延伸・
健幸※1 社会の実現

次世代型移動通信システム等を
活用した新たなスポーツ観戦
機会の創出

気軽にスポーツが
できる環境を整備し、
運動習慣を定着

e-スポーツや
バーチャルスポーツ※2の
普及・促進

トップアスリートの
輩出・強化・育成のための
拠点づくり

ボランティア文化の定着

目標例

平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加

※1 個々人が健康かつ生きがいをもち、安心安全で豊かな生活を営むこと。

※2 e-スポーツとは違い、オンライン上で実際に身体を動かし、バーチャル(仮想)で競うもの。

経済・まちづくり

❄️ 札幌市の特徴：雪まつり期間以外の冬期は観光閑散期
超高齢社会に適した交通体系の構築が必要

ターゲット(目指すまちの姿)

世界に躍進する魅力あふれるまちづくり



レガシー(大会によってもたらされるもの)の一例

大都市スノーリゾートとしての
ブランドを確立し、国内外から
観光需要を呼び込みます！

ICT等を活用した技術提案を
取り入れ、新たな交通体系の
実現を目指します！

そのほかにも…

ICTを活用した
シームレスで快適な
移動環境の構築

「世界に誇れるスノーリゾート・
国際都市札幌」の認知

スタートアップ^{※3}の集積

MICE^{※4}の開催都市として
定着する

施設等の老朽化対策・
まちのリニューアル

誰もが活躍できる
雇用環境の確保

目標例 2022年度年間外国人宿泊者数350万人

※3 社会や多くの人々が抱える課題を解決するため、革新的なアイデアや技術等をもとに、新しい形態のサービスやビジネスを展開する企業の中でも、社会に影響を与えることが期待でき、短期間で急成長を志向する企業。

※4 多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting(会議・セミナー)、Incentive Travel(企業報奨・研修旅行)、Convention(大会・学会・国際会議)、Exhibition/Event(イベント・展示会・見本市)の頭文字をとったもの。

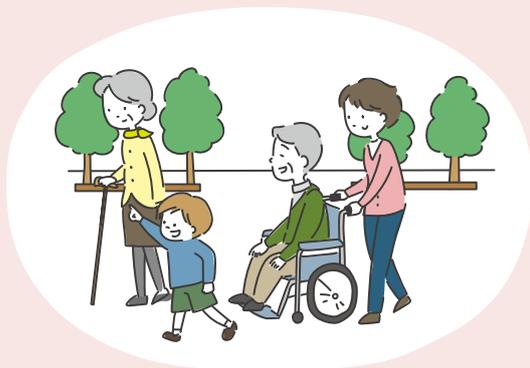
02 大会がもたらすまちの未来

社会

❄️ 札幌市の特徴：障がいのある人のうち、地域で暮らしやすいまちと思う割合が低い

ターゲット（目指すまちの姿）

全ての人にやさしい共生社会の実現



レガシー（大会によってもたらされるもの）の一例

心のバリアフリーが実現した
誰もが暮らしやすいまちを
目指します！

食や芸術等札幌ならではの
文化プログラムを募集し、
世界に発信します！

そのほかにも…

インフラのバリアフリー化促進

アイヌ文化をはじめとした
多文化への理解促進

雪を楽しむ文化や
ライフスタイルの普及

障がい者スポーツへの
取組促進

ジェンダー平等の推進

ICTを活用した健康増進・
医療・福祉サービスの充実

ワーク・ライフ・バランスの推進

目標例

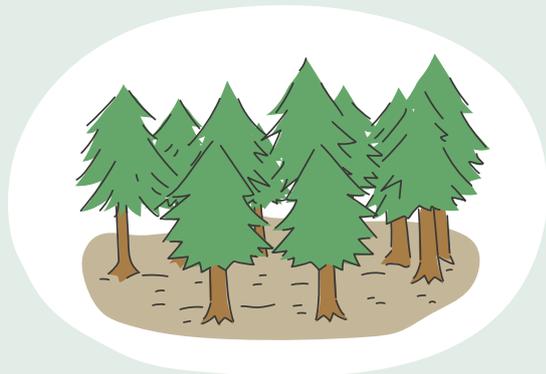
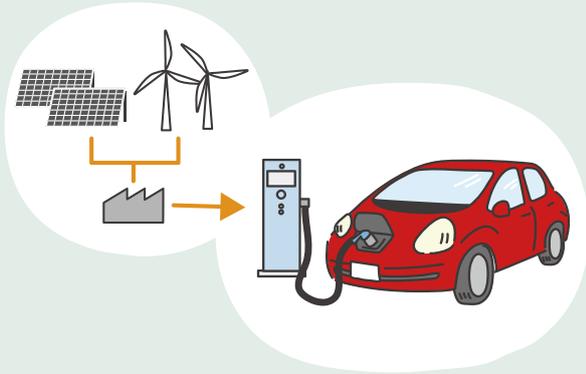
2030年度末までに利用者数の多い集客施設等を結ぶ経路の
バリアフリー化率100%

環境

❄️ 札幌市の特徴：家庭における一人当たりのCO₂排出量が多い

ターゲット(目指すまちの姿)

次世代が豊かな自然を享受できるまち



レガシー(大会によってもたらされるもの)の一例

再生可能エネルギー利用の
社会実験を実施し、積雪寒冷地における
新たな環境技術を積極的に導入します!

多くの人々の参加を受けて、
緑を育む活動を行います!

そのほかにも…

再生可能エネルギーの
利活用

森林等の自然環境保全

脱炭素型ライフスタイルへの転換

ゼロエミッション
自動車の普及

3R^{※5}の促進

省エネを徹底した
建物の普及

公共施設の温室効果ガス^{※6}
排出量ゼロの促進

目標例

2030年までに温室効果ガス排出量を2016年比で55%削減、
2050年までに実質ゼロ

※5 ごみの減量行動の①リデュース(発生・排出抑制)、②リユース(再使用)、③リサイクル(再生利用)の3つのR(アール)の総称。

※6 地表面から宇宙空間に放出される熱の一部を吸収し、大気温度の上昇を引き起こす二酸化炭素やメタンなどのガスのこと。

02 大会がもたらすまちの未来

札幌から広がるレガシー

オリンピック・パラリンピックは、開催をきっかけに様々な取組が進むことで、多くのレガシーを残します。加えて、開催地だけでなく、広く世界中に、多くのメリットがもたらされることにもつながっていきます。

❄️ 「クライメート・ポジティブ」な大会、そして世界へ

近年、猛暑日や豪雨災害の増加、農作物の収穫量減少等、私たちの生活を脅かす自然現象が頻発していますが、地球温暖化はその要因であると考えられています。

冬季オリンピック・パラリンピックは、山あいや林間部等、自然の地形を生かした会場で行われる競技が多く、十分な

降雪や寒冷な気候がなくては開催することが困難となります。このまま地球温暖化が進むと、2080年代には過去に冬季オリンピックを開催した都市の多くが開催に適した気候ではなくなってしまう、という研究結果もあります。

温室効果ガス排出量に応じた将来の冬季オリンピック開催に適した場所

	1981-2010年	2050年代 低排出	2050年代 高排出	2080年代 低排出	2080年代 高排出
Abertville	●	●	●	●	●
Beijing	●	●	●	●	●
Calgary	●	●	●	●	●
Cortina d'Ampezzo	●	●	●	●	●
Pyeongchang	●	●	●	●	●
St.Moritz	●	●	●	●	●
Salt Lake City	●	●	●	●	●
Sapporo	●	●	●	●	●
Lake Placid	●	●	●	●	▲
Lillehammer	●	●	●	●	▲
Nagano	●	●	●	●	×
Turin	●	●	●	●	×
Innsbruck	●	●	▲	▲	×
Oslo	●	▲	▲	▲	×
Sarajevo	●	▲	▲	▲	×
Squaw Valley	●	▲	×	×	×
Vancouver	●	▲	×	×	×
Chamonix	●	×	×	×	×
Garmisch - Partenkirchen	●	×	×	×	×
Grenoble	●	×	×	×	×
Sochi	●	×	×	×	×

- 信頼できる気候
- ▲ 気候的に大きなリスク
- × 気候上信頼できない

(出典:「Climate change will limit where the Winter Olympics can be held」
Dr.Daniel Scott他、2018年1月11日)

2030年以降のオリンピックは、温室効果ガスの削減量が排出量を上回る「クライメート・ポジティブ」な大会であることが求められています。その実現のため、例えば、大会をきっかけに新しい環境技術が生まれ、それ以後活用されることで、札幌発の「環境のレガシー」が世界中に広まります。これは、地球温暖化という人類共通の課題を解決に導く手立ての一つとなり、札幌が世界にもたらす好影響であると言えます。



❄️ 活力ある北海道、日本の実現

オリンピック・パラリンピックは、その規模や注目度の高さから、開催決定後、開催都市を訪問する外国人の数が長期間にわたって増加する傾向があると言われています。札幌1972大会においても、さっぽろ雪まつりの様子が大会の映像とともに世界中に紹介されたことをきっかけに国内外から多くの観光客が訪れるようになり、今や冬を代表する一大イベントとなりました。

一方、雪まつり期間を除く冬期は札幌の観光閑散期であり、その期間の集客力向上が課題となっています。そこで、冬季オリンピック・パラリンピックを通じ、ウインタースポーツと、観光や食、ショッピングなどを併せて楽しむ「スノーリゾートシティ」を実現することにより、市内の他の産業へ好影響がもたらされます。

また、このコロナ禍で、市内、道内の経済、主に飲食・宿泊サービス業等の第三次産業は大きなダメージを受けました。ポストコロナ時代を見据え、大会をきっかけに関係自治体やその近隣市町村、北海道と連携し、観光客の獲得や観光周遊ルートの形成等の観光振興策を図ることで、北海道の観光の底上げ、活性化を進めていくことができます。

さらに、北海道には多様なウインタースポーツを楽しめるフィールドがあることから、大会を契機としたプロモーションを行うことで、北海道を世界屈指の一大ウインターリゾートエリアへ発展させることが期待されます。これにより、日本を世界における冬の観光大国に押し上げ、経済や人的交流が活発化され、活力ある北海道、日本が実現できます。



03

大会概要(案)のポイント

これまでの経緯

- 2014年11月** ○…… 市議会が2026年冬季オリンピック・パラリンピックの札幌招致に関する決議を可決。
市長が2026年冬季オリンピック・パラリンピックの招致を表明。
- 2016年11月** ○…… 日本オリンピック委員会(JOC)に対し、開催提案書を提出し、計画を公表。
- 2017年11月** ○…… 開催地に立候補するにあたり、国際オリンピック委員会(IOC)との対話ステージに参加。
対話ステージではIOCから様々な指摘や助言がなされた。※下記参照
- 2018年9月** ○…… 北海道胆振東部地震の影響、札幌駅周辺のまちづくりの状況や北海道新幹線の
札幌延伸を踏まえ、2026年大会に向けた招致活動を終了し、
2030年大会へ向けて活動を継続。
- 2020年1月** ○…… JOC理事会において、札幌市が2030年冬季オリンピックの国内候補地に決定。
- 現在** ○…… これまでの招致活動や市民との対話を踏まえ、大会計画を見直し。

計画の更新

❄ 開催提案書の公表【2016年11月】

札幌で冬季オリンピック・パラリンピックを開催した場合、どのような大会にするのかを記載した開催提案書を作成し、JOCへ提出するとともに、その計画の内容を公表しました。

❄ 対話ステージへの参加【2017年11月】

IOCから、まちづくりと連動しながらも、次世代に過度な負担を残すことのない計画とするよう、指摘・助言を受けました。

❄ 市民対話事業の実施【2019年9月～10月】

これまでの指摘・助言を踏まえた計画の変更点をお示しし、大会招致に対する市民の皆さまの期待・懸念を把握するワークショップや、これらのご意見を振り返るシンポジウムを開催しました。

❄ 東京2020大会の1年延期、無観客開催【2021年7月～9月】

新型コロナウイルスの影響により、東京2020大会は史上初めて1年延期して実施された大会となり、ほとんどの会場で無観客で開催されました。

持続可能なオリンピック・パラリンピックとはどうあるべきかについて、改めて検討を行い、**これまでの計画を見直しました。**



大会概要(案)のポイント

❄️ Point 1 経費の精査

》 27ページ、28ページ

大会の実施に支障がない範囲で経費を縮減しました。

大会運営費には、従前の冬季大会よりも多くの割合で予備費を計上し、リスクへの備えを強化しました。

大会運営費は、IOCの負担金やスポンサー収入等の民間資金でまかない、原則、税金は投入しない計画としました。

大会に関連する経費の削減額

※2019.7.29冬季オリンピック・パラリンピック招致調査特別委員会公表時との比較



❄️ Point 2 大会を開催する意義やもたらされるレガシーの再構築

》 3~12ページ

昨今の社会情勢の変化を踏まえ、大会の開催が将来のまちづくりに貢献するものとなるよう、大会によって促進される4つの分野(「スポーツ・健康」「経済・まちづくり」「社会」「環境」)ごとに意義やレガシーを再構築しました。

❄️ Point 3 既存施設を最大限活用した施設配置

》 19~25ページ

すでに使われている施設を最大限活用し、大会のためだけの新しい施設は設けない計画としました。

自然環境の保全を重視し、会場整備における樹木の伐採等は、競技に必要な最小限の範囲でのみ行うこととしました。

オリンピック・パラリンピックが 私たちの心にもたらすもの

札幌で行われた東京2020オリンピックの陸上男子マラソンでは、オランダのアブディ・ナゲーエ選手が銀メダル、ベルギーのバシル・アブディ選手が銅メダルを獲得しました。2人はソマリア出身ですが、内戦により祖国を離れ、難民としてそれぞれ違う国から出場していました。

ゴール直前、バシル・アブディ選手は先を走るアブディ・ナゲーエ選手からの、手招きと励まされるようなしぐさに応え、3位争いから抜け出し、見事メダルを獲得しました。困難を乗り越え栄光を手にした2人の姿に、世界中が感動しました。



©毎日新聞社/アフロ



©picture alliance/アフロ

東京2020パラリンピックの自転車ロード女子タイムトライアルでは、杉浦 佳子選手が日本のパラリンピック史上最年長の50歳で金メダルを獲得しました。

金メダル獲得後の「最年少記録は二度と作れないけど、最年長記録はまた作れますね」という言葉は、パラアスリートの不屈の精神を象徴するとともに、さらなる高みを目指して挑戦し続ける姿が、多くの人の心を動かしました。

平昌2018大会のスピードスケート女子500メートル決勝では、金メダルを獲得した日本の小平 奈緒選手が、レース後、涙を流すライバル・韓国のイ・サンファ選手をたたえる姿が話題になりました。



©目利スポーツ/アフロ



©毎日新聞社/アフロ

日本で行われた冬季大会に目を向けると、長野1998大会のスキージャンプラージヒル団体で、日本は1回目のジャンプで4位と出遅れてしまいま

した。しかし、悪天候による中断を経て、日本勢は4人全員がK点越えのジャンプを成功させ、大逆転で金メダルを獲得しました。

また、札幌で開催された1972年大会のスキージャンプ70m級で、日本の三選手が金・銀・銅メダルを獲得し、冬季大会で初めて表彰台を独占しました。これをきっかけに、日本のスキージャンプチームは「日の丸飛行隊」と呼ばれるようになりました。

形のあるものをもたらすだけでなく、私たちの心に感動を呼び起こしてくれるものがオリンピック・パラリンピックなのです。



©松尾/アフロスポーツ

04 競技

オリンピック

開催期間 2030年2月8日(金)~24日(日)の17日間(想定)

競技数

7競技 109種目

※北京2022大会の競技・種目を参考に想定

❄️ 競技紹介

アイスホッケー

- アイスホッケー



©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO

ボブスレー

- ボブスレー
- スケルトン



リュージュ

- リュージュ



スケート

- フィギュアスケート
- ショートトラック
- スピードスケート



©SAWGOC / JapanSports



©SAWGOC / JapanSports



©SAWGOC / JapanSports

カーリング

- カーリング



©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO

スキー

- アルペンスキー
- クロスカントリースキー
- ノルディック複合



©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO



©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO



©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO

- ジャンプ



©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO

- フリースタイルスキー



©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO

- スノーボード



©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO

バイアスロン

- バイアスロン



04 競技

パラリンピック

開催期間 2030年**3月8日**金～**17日**日の10日間(想定)

競技数

6競技 80種目

※北京2022大会の競技・種目を参考に想定

❄️ 競技紹介

パラアイスホッケー



車いすカーリング



パラバイアスロン

•立位/座位/視覚



パラアルペンスキー

•立位/座位/視覚



パラクロスカントリースキー

•立位/座位/視覚



パラスノーボード



世界最大の冬季スポーツ大会が北海道・札幌に！

● 参加アスリート数

オリンピック

2,891人

パラリンピック

563人

● 競技会場数

オリンピック

12会場

パラリンピック

4会場

〈参考〉東京2020大会(暫定値)

● 参加アスリート数

オリンピック

11,092人

パラリンピック

4,403人

● 競技会場数

オリンピック

42会場

パラリンピック

21会場

❄️ パラリンピックとは

パラリンピックの原点は、1948年に遡ります。当時イギリスの医師であったロードウィッチ・グットマンは、戦争で障がいを負った人々のリハビリテーションの一環として、車いす使用者によるアーチェリー大会を開催しました。その後、1960年にイタリアのローマで第1回大会が、1976年にはスウェーデンのエンシェルトヴィークで第1回冬季大会がそれぞれ開催され、現在は原則、オリンピックの開催後、同じ都市、同じ会場で行われることとされています。

パラリンピックは、様々な障がいを持つアスリートが、

スポーツを通して無限の可能性を追求し、誰もが公平にその能力を最大限発揮できる機会となります。「Impossible」を「I'm Possible」*へ、パラリンピアンがこれを体現する姿は、私たちに工夫と勇気をもって行動を起こすことの大切さを気付かせてくれます。

※不可能 (Impossible) だと思えたことも、考え方を変えたり、少し工夫したりすればできるようになる (I'm Possible) という、パラリンピックの選手たちが体現するメッセージが込められた造語



© 毎日新聞社/アフロ

● 授与されるメダルの数

オリンピック

307個

パラリンピック

241個

※平昌2018大会の実績値

● 授与されたメダルの数

オリンピック

1,080個

パラリンピック

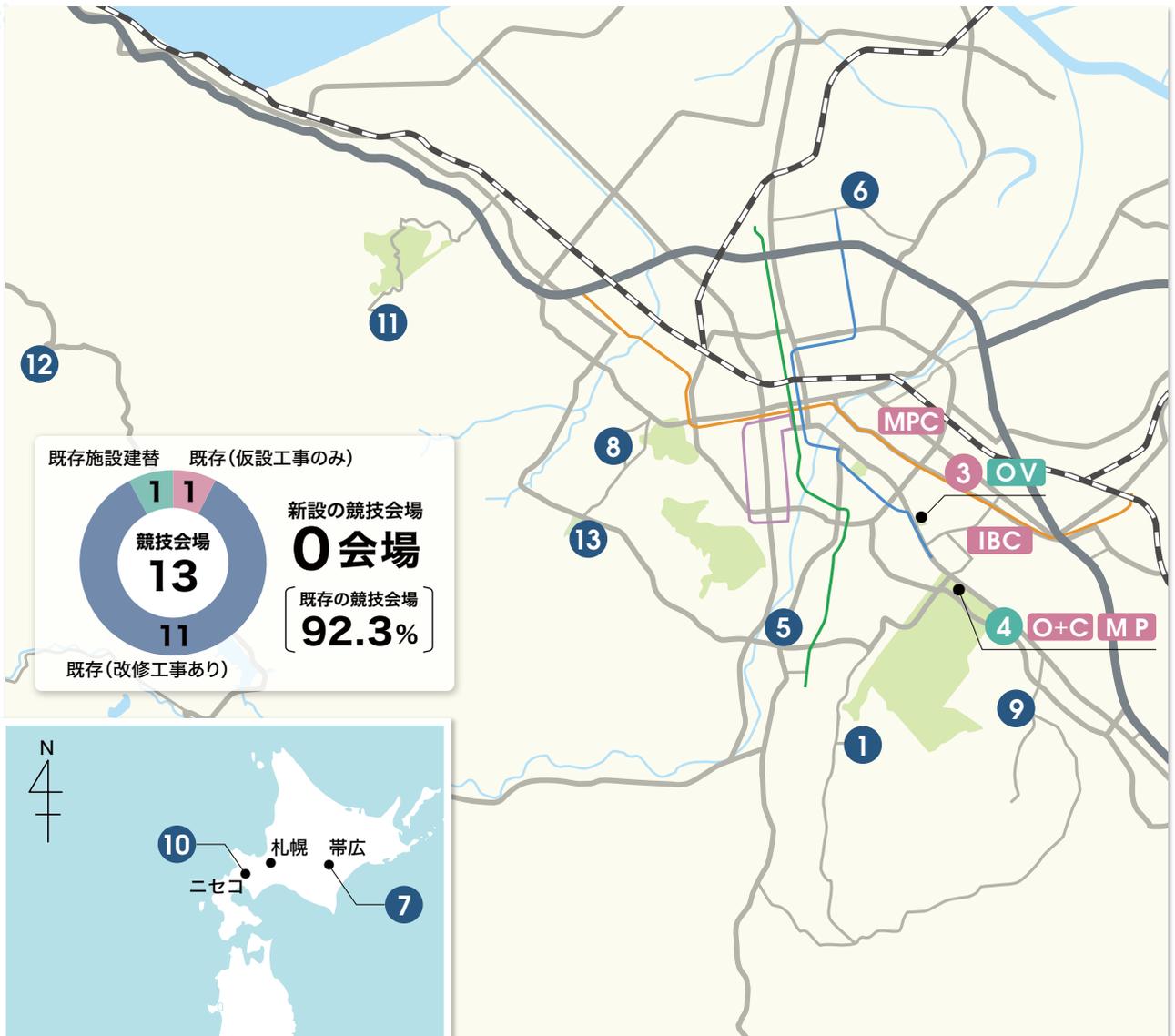
1,779個

04 競技

会場配置計画

札幌ならではの会場配置計画

- 札幌1972大会時の会場等、すでに市民利用されている施設を最大限活用します
- 都心の近くでウインタースポーツを楽しめる、札幌の特徴を活かします
- 樹木の伐採等は、競技に必要な最小限の範囲内におさめ、低炭素化に貢献する新たな技術を導入するなど、環境保全に努めます



番号	会場	競技種目等 (■:オリンピック ▲:パラリンピック)
競技会場		
1	西岡バイアスロン競技場	■ バイアスロン ▲ パラバイアスロン/パラクロスカントリースキー
2	長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)	■ ボブスレー・ボブスレー/ボブスレー・スケルトン リュージュ
3	月寒体育館	■ カーリング ▲ 車いすカーリング
4	新月寒体育館	■ アイスホッケー1 ▲ パラアイスホッケー
5	真駒内公園屋内競技場	■ アイスホッケー2
6	スポーツ交流施設コミュニティドーム(つどいむ)	■ スケート・フィギュアスケート スケート・ショートトラック
7	帯広の森屋内スピードスケート場	■ スケート・スピードスケート
8	大倉山ジャンプ競技場	■ スキー・ジャンプ スキー・ノルディック複合ジャンプ
9	白旗山競技場	■ スキー・クロスカントリースキー スキー・ノルディック複合クロスカントリー
10	ニセコエリア	■ スキー・アルペンスキー ▲ パラアルペンスキー
11	サップロテイネスキー場	■ スキー・アルペンスキー ■ スキー・フリースタイルスキー ▲ パラアルペンスキー スキー・スノーボード ▲ パラスノーボード
12	札幌国際スキー場	■ スキー・フリースタイルスキー スキー・スノーボード
13	さっぽろばんけいスキー場	▲ パラスノーボード
非競技会場		
O+C MP	札幌ドーム	■ 開会式/閉会式/メダルプラザ ▲ 開会式/閉会式/メダルプラザ
MPC	札幌コンベンションセンター	■ メインプレスセンター
IBC	新展示場	■ 国際放送センター ▲ 国際放送センター ※メインプレスセンターの機能を含む
OV	市営住宅月寒団地ほか ※老朽化した市営住宅の建替計画と連動した整備のほか、 既存ホテルの活用等、札幌市内で2~3の分村を検討。	■ 選手村 ▲ 選手村

※この計画は現時点での予定です。今後変更となる場合があります。

04 競技

会場配置計画

① 西岡バイアスロン競技場

- バイアスロン
- ▲ パラバイアスロン/パラクロスカントリースキー



所在地 | 札幌市豊平区西岡
整備手法 | 既存(改修工事あり)

札幌1972大会時に新設され、バイアスロンの会場として利用されました。その後もアジアバイアスロン選手権大会やIPCワールドパラノルディックスキーワールドカップなど、数多くの大会が開催されている競技場です。

② 長野市ボブスレー・リュージュパーク(スパイラル)

- ボブスレー・ボブスレー/ボブスレー・スケルトン
リュージュ



所在地 | 長野県長野市中曾根
整備手法 | 既存(改修工事あり)

長野1998大会時にボブスレー、リュージュ会場として利用され、その後も国際競技大会が開催されたソリ競技施設です。現在、冬期の製氷は休止していますが(冬期休園)、日本のトップ選手がトレーニングを行うナショナルトレーニングセンターに指定されています。

③ 月寒体育館

- カーリング
- ▲ 車いすカーリング



所在地 | 札幌市豊平区月寒東
整備手法 | 既存(仮設工事のみ)

札幌1972大会時にはアイスホッケーの会場として利用され、2015年には世界女子カーリング選手権大会が行われた施設です。現在は通年型スケートリンクとして利用されています。

④ 新月寒体育館

- アイスホッケー1
- ▲ パラアイスホッケー



所在地 | 札幌市豊平区羊ヶ丘(予定)
整備手法 | 既存施設建替

月寒体育館の後継施設として、移転建替を予定している施設です。2030年の札幌オリンピック・パラリンピック時には新旧2つの月寒体育館をそれぞれ競技会場として活用します。

5 真駒内公園屋内競技場

■アイスホッケー2



所在地 | 札幌市南区真駒内公園

整備手法 | 既存(改修工事あり)

札幌1972大会時に閉会式、フィギュアスケート、アイスホッケーの会場として利用された、大会のレガシーを象徴する施設です。2017年冬季アジア札幌大会では、フィギュアスケートとスケート・ショートトラックで利用されたほか、NHK国際フィギュアスケート競技大会や全日本アイスホッケー選手権等数多くの大会が開催されている競技場です。

6 スポーツ交流施設 コミュニティドーム(つどーむ)

■スケート・フィギュアスケート/スケート・ショートトラック



所在地 | 札幌市東区栄町

整備手法 | 既存(改修工事あり)

全天候型施設として、スポーツだけでなくイベントなどでも活用され、「つどーむ」の愛称で多くの方に親しまれています。2030年の札幌オリンピック時には、仮設の観客スタンドを設置して活用します。

7 帯広の森屋内スピードスケート場

■スケート・スピードスケート



所在地 | 帯広市南町南7線

整備手法 | 既存(改修工事あり)

自然条件に左右されず、通年利用が可能な屋内リンクとして2009年に開設された施設です。開設以来、多くの国際競技大会が開催されているほか、日本のトップ選手がトレーニングを行うナショナルトレーニングセンターに指定されています。

8 大倉山ジャンプ競技場

■スキー・ジャンプ
スキー・ノルディック複合ジャンプ



所在地 | 札幌市中央区宮の森

整備手法 | 既存(改修工事あり)

1931年に開設以来、札幌1972大会をはじめ数々の国際競技大会が行われています。敷地内の札幌オリンピックミュージアムは冬のスポーツ文化やオリンピック・パラリンピック教育の拠点となっているほか、札幌市内を一望できる立地のため市内有数の観光地としても親しまれています。

04 競技

会場配置計画

9 白旗山競技場

- スキー・クロスカントリースキー
スキー・ノルディック複合クロスカントリー



所在地 | 札幌市清田区真栄

整備手法 | 既存(改修工事あり)

本格的なスキー距離競技場として、1990年に完成しました。第2回冬季アジア競技大会を皮切りに2007年FISノルディックスキー世界選手権札幌大会等、数多くの国際競技大会の開催実績を有します。冬期間には歩くスキーコースやトレーニングコースが開放され、多くの市民、アスリートに利用されています。

10 ニセコエリア

- スキー・アルペンスキー
▲ パラアルペンスキー



所在地 | 北海道虻田郡倶知安町、ニセコ町

整備手法 | 既存(改修工事あり)

ニセコ地区は1960年代から開発が進み、いまでは大規模な民間リゾートが複数整備されています。標高1,308mのニセコアンブリを利用した大規模なスキー場が展開され、最長滑走距離5,000mを誇るコースから初心者コースまで、広く愛好者から親しまれています。

11 サップロテイネスキー場

- スキー・アルペンスキー/スキー・フリースタイルスキー/スキー・スノーボード
▲ パラアルペンスキー/パラスノーボード



所在地 | 札幌市手稲区手稻金山

整備手法 | 既存(改修工事あり)

札幌1972大会では、スキー・アルペンスキー競技の回転、大回転の会場として利用されました。また、2017年冬季アジア札幌大会でも、スキー・アルペンスキーとスキー・スノーボードの回転、大回転の会場として利用されました。

12 札幌国際スキー場

- スキー・フリースタイルスキー/スキー・スノーボード
▲ パラスノーボード



所在地 | 札幌市南区定山溪

整備手法 | 既存(改修工事あり)

1978年に開業し、スキー・スノーボードのパラレルなどの国内大会が開催されています。また、道内有数の温泉地である定山溪温泉からほど近く、北海道でも屈指のパウダースノーと広大なゲレンデが自慢です。

13 さっぽろばんけいスキー場

- スキー・フリースタイルスキー／スキー・スノーボード
- ▲ パラスノーボード



所在地 | 札幌市中央区盤渓

整備手法 | 既存(改修工事あり)

都心から20分でアクセスでき、スキー・フリースタイルスキーやスキー・スノーボードのアジア大会、ワールドカップが開催されています。また、2017年冬季アジア札幌大会では、スキー・フリースタイルスキーのモーグル、スキー・スノーボードのハーフパイプの会場として利用されました。

O+C MP 札幌ドーム

- 開会式／閉会式／メダルプラザ
- ▲ 開会式／閉会式／メダルプラザ



所在地 | 札幌市豊平区羊ヶ丘

整備手法 | 既存(仮設工事のみ)

2001年のオープン以降、2017年冬季アジア札幌大会の開会式やラグビーワールドカップ2019、東京2020大会等の、様々な国際大会で使用された多目的ドームです。大会時には開閉会式に加え、各競技のメダルセレモニーのほか、競技会場での白熱した試合の生中継を行います。

MPC 札幌コンベンションセンター

- メインプレスセンター



所在地 | 札幌市白石区東札幌

整備手法 | 既存(仮設工事のみ)

2017年冬季アジア札幌大会でもメディアセンターとして利用した施設です。大会時には、記者会見室やカメラマン・新聞記者向けの作業部屋等、報道関係者向けのメインプレスセンター(MPC)として活用されます。

IBC 新展示場

- 国際放送センター
- ▲ 国際放送センター ※メインプレスセンターの機能含む



※東京2020大会の国際放送センター

所在地 | 札幌市豊平区月寒東(予定)

整備手法 | 既存(仮設工事のみ)

大規模な展示場として計画されている新展示場を、大会時には各競技の映像を編集して世界中に発信する拠点や、各国のTVスタジオ等が設置される国際放送センター(IBC)として活用します。

04 競技

会場配置計画

OV 市営住宅月寒団地ほか

- オリンピック選手村
- ▲ パラリンピック選手村



所在地 | 札幌市豊平区月寒地区(予定) ほか

整備手法 | 既存施設建替 など

選手が安全・安心・快適に滞在できる住空間として、大会全体で約5,500人の選手・役員を収容します。老朽化した市営住宅の建替計画と連動した整備のほか、既存ホテルの活用など、札幌市内で2～3の分村を検討します。



05

宿泊・輸送等

オリンピック・パラリンピックでは国内外から多くの選手、観客、メディア、大会の関係者が札幌を訪れます。大会ではこれらの方々に円滑なサービスを提供するとともに、市民の皆さまにとっても安心、安全な生活環境を維持できる計画を検討します。

宿泊

❁ 多様な宿泊ニーズへの対応

札幌市の宿泊施設は30,000室以上の多様な客室を備えており、世界中から来訪する多数の大会関係者を収容する能力を有しています。

多くの大規模イベントや国際スポーツイベントを受け入れてきた経験を活かし、大会関係者や観客の多様なニーズに応えるおもてなしを提供します。

大会開催を契機とした共生社会の実現に向けて、宿泊施設のバリアフリー化を促進する取組を進めます。



輸送



❁ 誰にとっても快適な移動環境の提供

選手等大会関係者については、専用車両の使用やオリンピック優先レーンの設定等により、確実に輸送を行います。

観客については、公共交通ネットワークの活用や競技会場と交通拠点を結ぶシャトルバスの運行等により、円滑な輸送を行います。また、駅や経路のバリアフリー化を進め、あらゆる方が利用しやすい環境整備を進めます。

大会関係者や観客の移動に伴う交通混雑を緩和するため、交通需要マネジメントの推進やICTの活用により、良好な交通環境の維持に努めます。

その他(安全対策等)

❁ 東京2020大会等の知見を活かした安心・安全な大会の実現

警察、消防、自衛隊、民間警備会社等と連携し、テロの未然防止や大規模災害発生時における体制を整え、大会関係者や観客、市民の皆さまにとっても安心安全な競技実施や観戦を保証します。

医療機関との連携を密に行い、通常のサービス水準を落とさずに大会関係者や観客にも安心して医療サービスを提供できるような体制を構築します。

万が一感染症が発生した場合も、東京2020大会や他の国際競技大会、スポーツイベントでの取組状況を踏まえ、影響を最小限に抑えて開催できる対策を検討します。



施設整備費 (本設費用)の試算

〈施設整備費(本設費用)で考慮するポイント〉

- すでに使われている施設を今後も使っていくための更新・改修のみを実施し、大会のためだけの新しい施設は設けない計画とします

オリンピック・パラリンピックの夏季大会と冬季大会では、競技数や使用する会場数、参加選手数といった大会の規模が大きく異なります。さらに現在の計画では、都心の近くでウインタースポーツを楽しめるという札幌の特徴を活かし、できる限り今ある施設を使用し、大会を実施することとしています。

現在、大会で使用を想定している施設は通常市民が活用していますが、老朽化が進んでいるものもあることから、今後も利用していくためには延命化や更新を行っていく必要があります。

そのため、今回の施設整備については、大会の開催有無に関わらず、すでに使われている施設を今後も継続し

て利用していくことを前提に、大会を契機により長く活用することを踏まえた改修(バリアフリー改修等)を想定しています。

大会後も施設所有者の財産として、多くの人々が利用するために必要な更新・改修のみを行うこととしており、その費用として、約800億円と試算しています。

なお、すでに市民が利用している体育館等、札幌市が所有する施設の更新・改修については札幌市が実施し、現行制度に基づいて、国の交付金等を活用していくことも想定しており、その場合の実質負担額は約450億円と試算しています。

施設整備費 総額	800億円
うち、札幌市実質負担額	450億円

※総額と札幌市実質負担額の差は国からの交付金等を想定



大会運営費 (組織委員会予算)の試算

〈大会運営費(組織委員会予算)で考慮するポイント〉

- 原則、税金は投入しない計画とします
- 不測の事態への対応のため、予算の10%程度の予備費を確保します
- 収入に見合った効率的な大会運営に努めます

大会の運営に要する経費は組織委員会が集めた収入でまかなうものとしており、その予算規模はおよそ2,000～2,200億円と試算しています。

収入はIOCの負担金やスポンサー収入、チケット売上収入等で構成され、原則、税金は投入されず、民間資金による収入でまかなう計画とします。

支出はセキュリティや輸送、宿泊に要する費用や観客席の一時的な増設といった仮設費用等を見込んでいます。さらに、東京2020大会における新型コロナウイルスへの対

応等、不測の事態への予備費として、予算全体の10%程度を見込んでいます。

札幌市はこれまで、3度の冬季アジア競技大会をはじめとする冬季競技の国際競技大会の開催に携わり、大規模スポーツイベントの運営ノウハウを蓄積してきました。その経験を十分に活用し、収入に見合った大会運営を行っていくことを基本として、今後も費用の削減に向けた検討を進めていきます。

大会の運営に要する経費

収入項目	金額
IOC負担金、TOPスポンサー収入	800億円
国内スポンサー収入	800～1,000億円
その他(チケット、ライセンス収入など)	400億円
収入合計	2,000～2,200億円

支出項目	金額
仮設費用(観客席の一時的な増設など)	600億円
その他運営費	1,200～1,400億円
予備費	200億円
支出合計	2,000～2,200億円

招致に向けた取組

今後の展開

※ 皆さまと対話を進めます

シンポジウムやワークショップ、札幌1972大会50周年記念事業をはじめとした機運醸成の機会を活用し、大会招致に対する札幌市の考えを発信するとともに、冬季オリンピック・パラリンピックに対する期待や懸念の声を

把握します。

皆さまとの対話で得られた意見は、今後の計画検討に取り入れていきます。

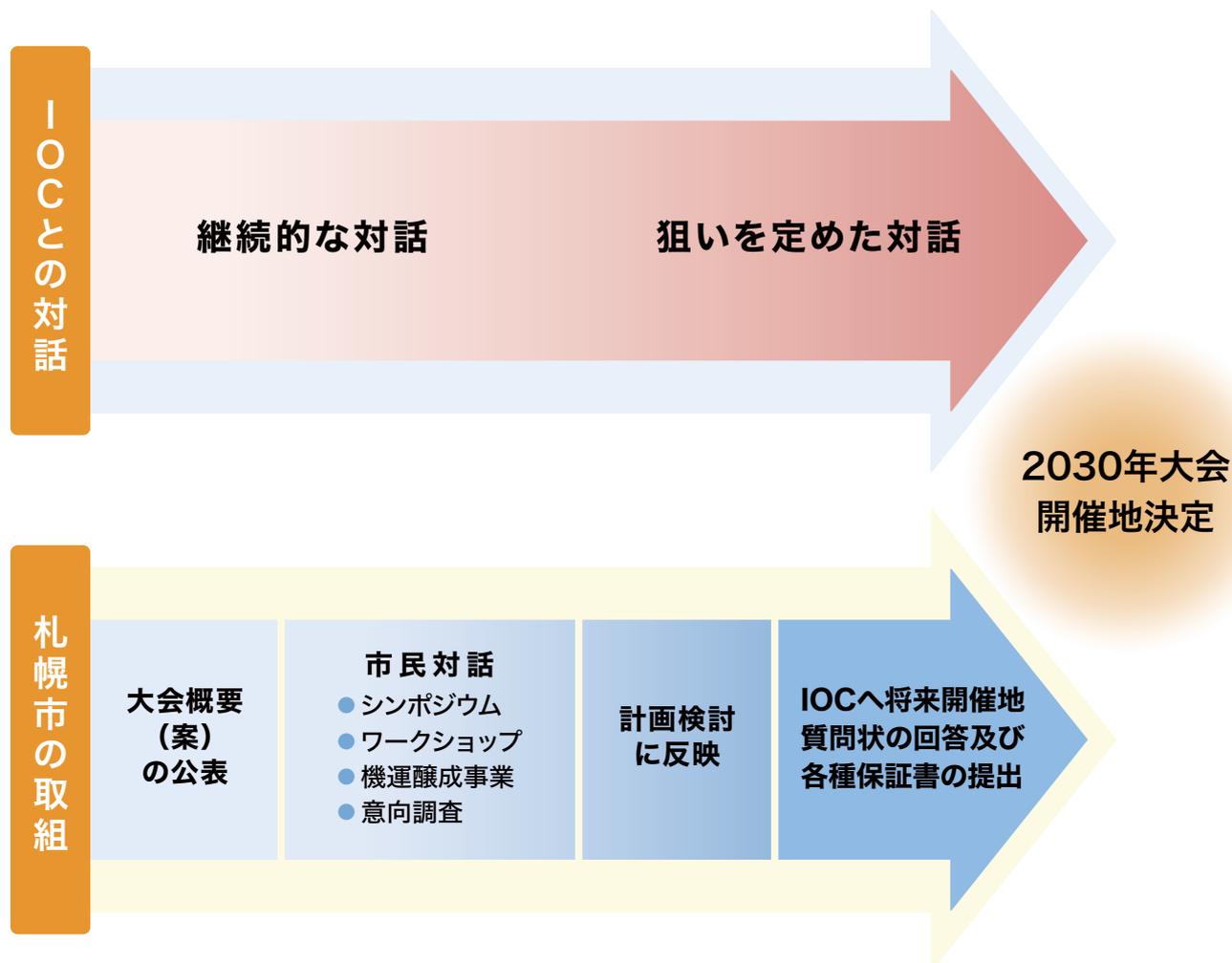
※ 2030年大会開催地決定までの道のり

現在、札幌市はIOCと「継続的な対話」を行っているところですが、IOC理事会による承認を得られた場合は「狙いを定めた対話」に移行します。

「狙いを定めた対話」では、これまで検討してきた大会計

画をもとに、将来開催地質問状の回答や各種保証書を提出し、2030年大会の開催地が決定します。

なお、開催都市契約の内容についても、この過程の中でIOCと協議していく予定です。





PARA ALPINE SKIING



ALPINE SKIING

©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO



BIATHLON

©SAWGOC / PHOTO KISHIMOTO



PARA BIATHLON

私たちも2030年大会招致を応援しています



2018年平昌オリンピック
女子ジャンプ銅メダリスト
高梨 沙羅 選手

まだ、私がジャンプを始めていない時、競技場で選手が飛んでいる姿を見ることがあってすごく心が動かされたのを覚えています。

そして私も同じようにかっこよく飛んでみたいという気持ちが芽生え、トップを目指して頑張るようになりました。

2030年に札幌でオリンピックが開催されればスキージャンプの人口も増えると思いますし、同じ競技に取り組む子どもたちの声援は現役のアスリートにとって、この上ない励みになります。

世界最高の大会が目の前で行われ、それが子どもたちの夢や希望につながっていく。そんな場面が増えたら、本当にうれしいと思います！

ぼくは、1998年の長野大会で夢だった金メダルを獲ることができましたが、振り返ってみると本当に幸せな選手生活を送れたと思っています。

自国開催ということで、会場全体から多くの声援をもらい「力をもらった」、「背中を押してもらった」という感覚が生まれたのを鮮明に覚えています。

そして、あれから約20年が経ちましたが、今でも多くの人の記憶に残してもらっていて本当にありがたいですし、もし札幌で冬季大会が開催されるのであれば、正直なところ「うらやましい」と感じます。

競技に励んでいるアスリートたちのためにも、ぜひ、2030年の大会を札幌で開催して欲しいと思います。



1998年長野オリンピック
男子スピードスケート500m金メダリスト
清水 宏保 さん

札幌市の冬季オリンピック・パラリンピック招致に関する取組については
下記URLまたは右のQRコードからご覧ください

<https://www.city.sapporo.jp/sports/olympic/menu.html>

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です



令和3年(2021年)11月発行

編集・発行 札幌市スポーツ局招致推進部調整課

〒060-0002 札幌市中央区北2条西1丁目 ORE札幌ビル9階

TEL.011-211-3042 FAX.011-211-3048



さっぽろ市
01-E02-21-1730
R3-1-145